

# 災害から命を守るために

台風や大雨など、災害が発生しやすい季節になりました。昨年は、相次ぐ台風の襲来によって多くの市民が避難され、市内各地で被害が発生しました。いつ起こるかわからない災害から、どのように命を守れば良いのでしょうか。日ごろから、災害が発生した時の備えについて考えてみましょう。

## 発表される情報を確認しましょう

避難情報を発令する際に使う5段階の警戒レベルにおいて、警戒レベル4までに必ず避難するようになりました。告知放送など市が発令する情報に注意して、命を守る行動をとりましょう。

警戒レベル	新たな避難情報等		これまでの避難情報等
5	 災害発生 又は切迫	きんきゅうあんぜんかくほ <b>緊急安全確保</b> ※1	<b>災害発生情報</b> (発生を確認したときに発令)
~~~~<警戒レベル4までに必ず避難！>~~~~			
4	 災害の おそれ高い	ひなんしじ <b>避難指示</b> ※2	・避難指示(緊急) ・避難勧告
3	 災害の おそれあり	こうれいしゃとうひなん <b>高齢者等避難</b> ※3	<b>避難準備・ 高齢者等避難開始</b>
2	 気象状況悪化	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	 今後気象状況 悪化のおそれ	早期注意情報 (気象庁)	早期注意情報 (気象庁)

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるとは限りません。

※2 避難指示は、これまでの避難勧告のタイミングで発令されることになります。

※3 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

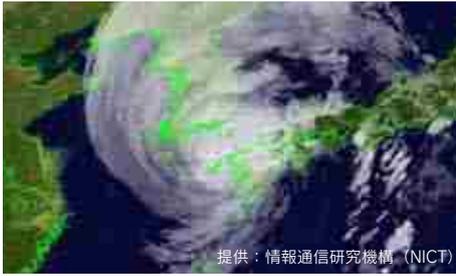
## 避難行動とは

<h3>立ち退き避難</h3>  <p>避難所への移動</p>	 <p>安全な場所への移動 (親戚や友人の家など)</p>	 <p>近隣の高い建物などへの移動</p>	<h3>屋内安全確保</h3>  <p>建物内の安全な場所での 退避(2階など)</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 避難について知っておくべきポイント

- 避難とは「難」を「避」けることです。安全な場所にいる人まで避難所に行く必要はありません。
- 避難先は、避難所だけではなくありません。安全な親戚・知人宅に避難することも考えてみましょう。

## 短期間で対馬を襲った2つの台風



対馬に接近する台風第9号

提供：情報通信研究機構（NICT）

昨年発生した台風第9号と第10号は、わずか数日という間隔で対馬に最接近し、激しい雨や高潮によって大きな被害をもたらしました。台風第10号の際には、市が設置した避難所に、過去最多となる1,500人の市民が避難し、満室になる避難所も発生する事態となりました。

### 被害状況（台風第9号・第10号合算）

- 人的被害：負傷者1人
- 住宅被害：30棟（全壊・一部損壊）
- 船舶被害：49隻（転覆・損壊）
- 停電：最大14,100戸 など



強風による倒木で各地で被害



屋根が損壊した久田中体育館

### 「経験したことのない台風」に備えて



ホテルへと避難する人達



窓ガラスの飛散に備える家も多かった

報道などで最大級の警戒が呼びかけられた台風の接近に備え、ホテルを利用した避難など、市が設置した避難所以外への避難も積極的に行われました。また、窓ガラスの飛散に備えようとテープなどで補強する家も多く、ホームセンターなどではテープ類の品切れも相次ぎました。

### 実際に避難された方にお話を聞きました

#### 仁位 正博 さん（厳原町在住）

これまで台風などが来ても、家を離れて避難する必要を感じていませんでした。しかし、台風第9号の時、一晩中吹き荒れる暴風の中、不安で一睡もできず過ごしたことでその考えは一変しました。もしも夜中に窓ガラスが割れてしまったら、私にできることはない。身動きがとれなくなる前に、より安全なところへと移動する必要があることを強く感じたのです。そこで、接近する第10号に備え、両親と3人で避難所に行くことにしました。避難所で台風をやり過ごしていた時、とても安心して過ごすことができていることに気が付きました。これからも必要に応じて避難を行い、自らの安全を守る行動をとっていきたいと思います。

また、避難所は文字通り「難を避ける場所」ですが、できるだけ快適に過ごせるように持ち物などを工夫する必要を感じました。例えば、硬い床で横になることもあるため、マットの代わりに荷物を梱包する緩衝材が役に立つと思います。

他にも、避難所によっては一晩中照明がついていることもあるので、アイマスクを使うなど、睡眠がしっかりとれる備えも必要だと感じました。



睡眠への備えも必要



## 市が開設する指定緊急避難所

対馬市では、台風や大雨などによって災害が発生する可能性がある場合、右の9施設に指定緊急避難所を開設します。避難所が不足する場合には、そのほかの施設に避難所を開設します。開設した際には告知放送などで皆さんにお伝えします。

### ★避難所には必要な物を持参してください

避難所は、原則、避難するための場所のみを提供します。災害が発生する前に、避難所での食料や着替え、毛布など滞在できる準備を行い持参してください。

- 対馬市交流センター（厳原地区公民館）  
【厳原町今屋敷661-3】
- 豆酸住民センター【厳原町豆酸3075】
- 佐須窓口センター【厳原町小茂田713】
- 美津島文化会館【美津島町雞知甲1287-1】
- 豊玉文化会館【豊玉町仁位370】
- 峰地区公民館【峰町三根451】
- 中対馬開発総合センター【峰町佐賀608-1】
- 上県町地域福祉センター「喜多の苑」  
【上県町佐須奈乙339】
- 上対馬総合センター【上対馬町比田勝575-1】

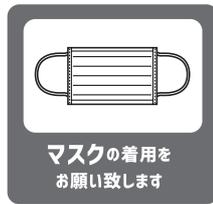
## コロナ禍での避難

新型コロナウイルス感染防止のため、手指消毒や体温測定をはじめ、避難所の収容人数の調整や避難者間の距離の確保などの対応を行っています。

また、避難所の区画を分けて体調不良の方を収容するなどの対策を行っていますので、発熱などの体調不良であっても避難を行ってください。



新型コロナウイルス対策となる段ボール簡易ベッド



## もしもに備えて家庭でできることは？

### 家族防災会議を開こう！

災害のとき、家族があわてずに行動できるように、役割分担や避難所を確認するなど、実際に災害が発生したときのことを想定して、定期的に家族防災会議を開きましょう。また、非常の際に持ち出すものを、表紙のチェックリストを参考にして用意しておきましょう。



防災情報  
(市ホームページ)



### 災害時の食事を考える

災害の際に必要な飲み水や食事も、日ごろから考え、準備しましょう。一般的に3日分の備蓄が必要とされていますが、せっかく準備をするなら、おいしいものや食べたいものを準備しておくことも大切です。缶詰やインスタント食品などは日ごろ食べるものを買って置き、備えておく【ローリングストック】という方法もあります。

知  
得!!

### お菓子がポテトサラダに!?



そのまま食べてもおいしいジャガイモを使ったお菓子に、お湯とマヨネーズを加えるとポテトサラダに大変身！ちょっとした工夫で食事の幅も広がります。



災害時に備えた  
食品ストックガイド  
(農林水産省)

## 自分たちの命や暮らしを守るために

地区が点在している対馬では、これまで災害によって道路が分断され地区が孤立することも発生しています。行政がすぐに支援に向かうことが難しい場合もあり、市民の命や暮らしを守るためには、市民一人一人と地域、行政の力を合わせて対応することが必要です。

## 共に助け合う「自主防災組織」

地域の防災を担う取り組みに自主防災組織があります。現在、対馬市では18の自主防災組織があり、災害時に住民同士で助け合う協力体制を作っています。

そのような中、豊玉町卯麦地区では、今年の4月から自主防災組織「卯麦サポート会」を立ち上げ、活動をスタートさせました。毎月1回地区集会を開くなど、地域住民の繋がりが深い卯麦地区で、なぜ今新たな組織を立ち上げたのでしょうか？

### 卯麦サポート会会長の吉村敏喜さんにお話を聞きました

昨年の台風第10号の接近で、卯麦地区でも建物の損壊や、川の水があふれるなどの被害が発生し、危険を感じた多くの住民は、それぞれの判断で避難所などに避難しました。しかし、避難の状況を地区で把握していなかったため、安全な場所にいるのか、災害に巻き込まれていないか分からなくなってしまいました。天候が悪化したり、災害が発生したりした時に動き出すのでは遅いと感じ、防災について普段から考えて行動しようと、自主防災組織を立ち上げることにしました。



卯麦サポート会 吉村 敏喜 会長

一人暮らしの高齢者が多い卯麦地区では、世帯間の連携がとりにくく、災害時に地域での手助けが間に合わない可能性が高くなっています。また、各地で頻発する自然災害に対し「うちの地区は何も起きないだろう」と思うことは非常に危険であると感じました。そこで自主防災組織を立ち上げることにより、災害時の役割分担や、誰に連絡や相談をしたら良いかを明確にすることにしました。今後は、災害時の安否を分かるようにする仕組みを考えたり、救命講習などを受けてりして少しずつ形を作っていこうと思っています。



組織の連絡先を各世帯に配布

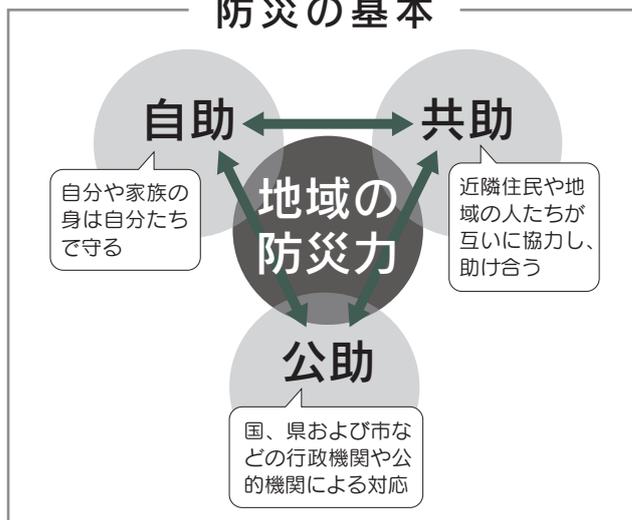
対馬市では、自主防災組織の活動促進のため、組織の新規結成や活動に要する経費に対して助成を行っています。また、資料提供や地区説明会の開催など自主防災組織の結成に向けた取り組みを支援しています。詳しくは、総務課 地域安全防災室までご相談ください。

## 災害時には正確な情報を

災害時に正確な情報を入手することは、命を守るためにとても大切な行動です。テレビ、ラジオや市の告知放送などに気を配るとともに、SNSなどの情報は「いつ・誰が・どのように入手し」発信している情報なのかを確認して、正確な情報を入手するよう心がけましょう。

また、モバイルバッテリーも併せて用意しましょう。市では、ホームページやLINEを活用して、災害情報を発信していきます。

## 防災の基本



毎月1回行われる地区集会



大雨であふれ出す卯麦川

